

### ① Silverlightの歴史と現在の状況

### ② なぜSilverlightで業務アプリ？

- ▶ “RIA”の2つの側面
  - ▶ デザイン、リッチ、UX
  - ▶ 配布、運用管理の手間
- ▶ VBにおけるアプリとスキル(開発者)の資産
- ▶ 単一言語で構築できる手軽さ
- ▶ 文句なしに生産性抜群のVisual Studio
- ▶ 充実した.NET Frameworkベースのライブラリ

### ③ 業務アプリ開発を阻む壁

- ▶ n層開発（VBによるC/Sアプリ開発経験）
  - ▶ Webサービス、非同期通信、パフォーマンス
- ▶ UIフレームワークの刷新（XAML）
  - ▶ 高い自由度がもたらす複雑性
  - ▶ FlashデザイナーはいるがXAMLデザイナーは…
- ▶ Visual StudioのSilverlight対応具合
- ▶ ダウンロードサイズの肥大化
  - ▶ イン트라ネットといえど、起動パフォーマンスは重要

### ③ 業務アプリ開発を阻む壁

- ▶ Silverlight ラインタイム サイズ制限
- ▶ マルチプラットフォーム サポートによる制限
- ▶ セキュリティ対策による制限
  - ▶ コントロール (数は多いが機能は…)
  - ▶ 日本語やIME関係のサポート
  - ▶ 印刷、ファイルアクセス

業務アプリ開発で求められる機能とは？